

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1982 6・7

第14回通常総会報告

5月28日(金)協会本部から15分程の、東京・全郵政会館が今回の会場である。昨年の大阪会場より一回り広い、地階の大ホールがそれで、落ちついた雰囲気の中での議事審議となった。以下その概要報告です。

正会員の当日出席者38名(関東29名、関西3名、九州2名、中部4名)のほか、オブザーバーとしての名誉、準、賛助会員の顔も見られた。定款による委任状提出者は174名、合計202名(開会後の委任状到着を除く)の出席を以て総会は成立した。

会は定刻の午後1時30分開会。開会宣言は総務担当の中村理事が行った。次いで山品事務局長よりの成立報告があり、議長をはじめとする議事運営三役の選出となった。議長に榎田均(関東)、議事録署名人に前原誠、諸富幸成(以上関東)の3正会員を選出。書記に増本敏治(関東)会員を任命した。

先ず三輪理事長が挨拶に立ち、事業進展の状況を述べ、会員各位の会務への協力感謝と、今後の事業充実に対する協力が重ねて要請された。また、多忙な中を臨席されている通産省安喰通産事務官はじめ出席の友好3団体への謝辞が述べられた。

続いて、来賓代表として安喰事務官よりデザイン行政の

目 次

●第14回通常総会報告	1
●1981協会賞授賞式・祝賀会	3
●中部支部57年度総会報告	4
●57・第1回理事会議事録	4
●三溪園と薪能と	7
●台北市室内設計公会訪問記	9
●関連団体の動き	10
●会員の消息	11
●新入会員の紹介	12
●インテリア産業振興対策委員会	
中間報告書から(第1回)	15
●事務局短信	18

立場から祝辞を頂戴した。

議長以下書記、議事録署名人が所定の場所に着席すると、直ちに第一号議案より審議が始まった。第一号議案「昭和56年度事業報告」については理事長より、また、昭和56年度収支決算報告については事務局長より順序よく報告され、総会はこれを承認した。また、岡村監事が、年度監査結果の報告を行い、上記同様承認となった。

次いで第二号議案として、「新理事就任ならびに理事長、副理事長就任の件」を上程。先ず昨年12月10日に実施された役員選挙の結果について工藤選挙委員長から報告があった。この詳細については「JID NEWS 1982年1月号」に既報の通りである。即ち、三輪正弘、中村圭介、泉修二、山品元、島崎信、渡辺優、木村戦太郎、森谷延周、尾上孝一、川上信二（次点垂見健三）〔以上関東支部定数10名〕、川崎浩、樋口治、富田卓司〔以上関西支部定数3名〕、中川千年、宇賀敏夫〔以上九州、中部支部定数各1名ずつ〕

また、監事については渡辺力〔関東支部定数1名〕、岡村実〔関西、九州、中部の3支部より定数1名〕がその氏名で、当選者となっている。但し理事にあつては木村戦太郎就任辞退に伴い、次点第1位の垂見健三を繰上げ当選とした。以上が選管よりの報告となった。

新理事長ならびに新副理事長の決定については、去る2月15日の新理事予定者会議および総会に先立って行われた5月28日午前中の57年度第1回理事会に於て互選の結果、新理事長に三輪正弘、新副理事長に泉修二が選ばれている。いずれも再選である。以上の新理事予定者と正副理事長の就任とについて議長これを一括して総会に諮った結果、全員異議なく承認となった。

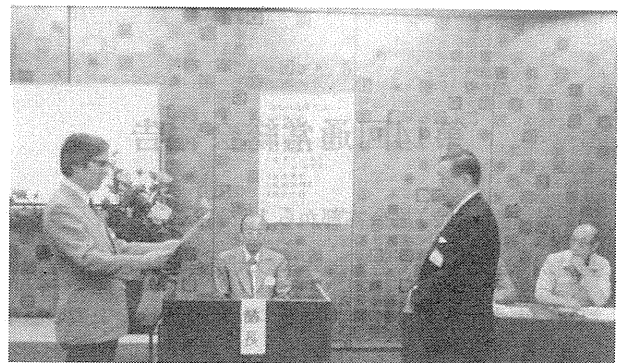
ここで、事務局より会費未納者に対する提議が出され、議長が総会にはかったところ、採択を決定、直ちに審議することになった。除名対象者は安藤忠雄（正会員、関西）、有川勲一、宮藤すみれ（以上いずれも準会員、関東）の3名、権利停止対象者は伊藤譲二、小林喜代政、後藤嘉夫、瀬十記夫、西川昭紀、長谷川六、林栄一（以上正会員7名）、栗原勝彦、品川誠、水谷松治、米倉武巳（以上準会員4名）の合計14名についてである。

以上の会員に対し、除名対象者に対しては定款第11条1項の(1)及(3)に徴し、また、権利停止対象者に対しては定

款第8条及第11条、会員規定第12条に基づき12ヶ月の権利停止を審議したところ、総会は提議主旨を是とし除名ならびに権利停止を承認した。ただ除名対象者に対しては法的手続をとるまでの段階で会費納入が為された場合、通常の退会扱いとするよう理事会にその取扱いを一任した。



出席者の表情



松本政雄氏、名誉理事に

次に第三号議案として「昭和57年度事業計画案」が上程され、三輪理事長より趣旨説明が加えられた。また、「同収支予算案」については山品事務局長より詳細説明があり、いずれも議案書資料に記載の内容で原案通り承認された。

報告事項については以下の点が各担当者から報告となった。

① 野口記念基金事業報告については白石選考委員長より56年度の検討内容と準備報告が、

② 名誉理事および名誉会員の推挙報告については事務局長より次の方々4名の推挙に到る経緯が報告された。

名誉理事：松本政雄さん（中部）

名誉会員：勝瀬壮一さん、加集喜雄さん（以上関東）、

武村勲さん（関西）

以上2件につき総会はこれを了承した。

引続き上記4人の方々の会務へのご功績に対し、出席者全員の拍手のうちに理事長より感謝状がそれぞれ贈呈され

た。4人を代表して松本さんから謝辞が述べられた。

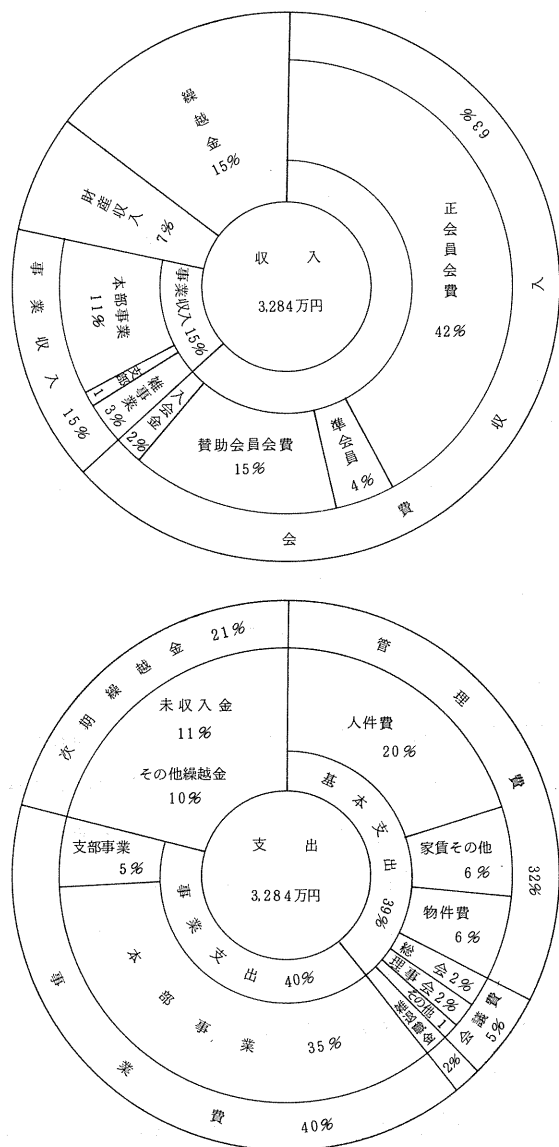
こうして第14回通常総会の全議事は審議満了となり、最後に泉副理事長から総会出席による議事審議への感謝と併せ本年度の会務遂行への協力を要請する挨拶で閉会となった。榎田議長、増本書記、前原、諸富両議事録署名人に対し議場から大きな拍手が起り、三役は下壇となった。定刻4時、昭和57年度の総会は無事終了したことを誌上に報告いたしました。文中敬称略（総務 H・Y）

当日出席者（順不同）

中村圭介・高田紀久枝・山品 元・鈴木栄二・
諸富幸成・川崎 浩・榎田 均・垂見健三・三輪正弘
加集喜雄・狩野雄一・増本敏治・宇賀敏夫・中川千年
坂本康四・松本政雄・前田千鶴子・塩田一夫・
尾上孝一・山本棟子・前原 誠・樋口 治・
稲垣紘一郎・吉良ヒロノブ・森谷延周・白石勝彦
山本其観代・三宅正郎・川野 明・泉 修二
岡村 実・長 大作・島崎 信・山口勇次郎
関里絵子・わたなべひろこ・吉永 淳・永原 浄

● 先に第14回総会議案書で報告しました昭和56年度の決算報告について、本年は理解の一助に、総会当日、下記のような内容のプリントを出席会員にお渡ししました。当日出席できなかった会員の方々のために、ここに再録いたしました。収支のそれぞれのパーセントなどが理解しやすいと思います。

昭和56年度決算の費目比率



1981協会賞授賞式・祝賀会

総会終了後、休憩一時間。理事、委員の有志による会場設営協力があり、定刻より自然開会となった。一通り喉をうるおした5時30分、樋口理事の発声で授賞式に移った。本年の受賞者は既報のように次の方々である。

①（作品）「チトセのSYSTEM 8000」

山内陸平氏

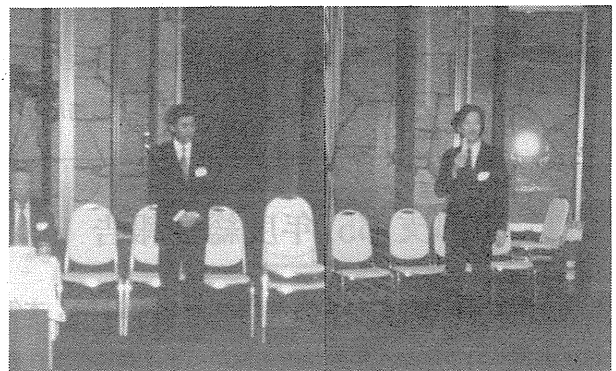
②（業績）「長年にわたる企業姿勢とデザイン開発」

株式会社 山川ラタン

まず、白石選考委員長より選考経過が逐一詳しく報告された（内容は議案書19ページ又は「J I D NEWS 4・5月号に既報）。その後、三輪理事長より協会賞額が

山内陸平氏、山川ラタンの代表としての山川譲同社社長に贈呈された。引続き、お二人から、受賞の喜びと今までの仕事の披露を織りまぜながら、予め用意されたパネルを前にして挨拶が行われた。

受賞のお二人



左から山川譲(山川ラタン社長)氏と山内陸平氏

川崎理事の音頭とりで受賞の乾杯があり、一同お二人の受賞と今後を祝福した。続いて受賞者の一人山内陸平氏の消息に詳しい樋口理事からくだけた中にも先輩らしい話が出され、また、山川ラタンに関係の深い長岡前理事から友人山川譲氏を語っていただく一コマもあった。

また、本年から協会賞額が一段と見事なものにすることができた、として感謝をこめて白石選考委員長から以下の点が出席者に披露された。

「協会賞には受賞者の銘が刻まれることになっているが、従来そのプレートは高純度のアルミニウム板で作られていた。昨年の大阪での受賞式の折、浅野正道正会員（関西：ニチエス株式会社）からプレート制作について協力が申出られ、ニチエス製のキュプロニッケル（Cu 75%，Ni 25%）合金によるもので本年は計画された。これは100円、50円硬貨とに使用されているものと同じものである。初めての試みながら、その色、つや等ニッケル特有の高い風格が感じられ、益々協会賞の価値にプラスすると思うので、この機会にぜひ報告傍々浅野さんならびにニチエス株式会社のご協力に感謝したい」以上がその経緯の要約である。

祝杯が重ねられる中、いつか祝賀会兼懇親パーティーとなり、ご出席いただいた来賓の方々から協会に対するお言葉をいただいた。

・通産省（安喰茂事務官）、日本クラフトデザイン協会（槻尾宗一事務局長）、日本グラフィックデザイナー協会（藤本祐子事務局長）、商業施設技術団体連合会（松崎徹常務理事）〔順不同〕

また、賛助会員のご出席もあり、同席の会員への紹介が事務局長より行われた。地方支部会員、新入会員等の紹介も紹介のよい機会ということで為された。

翌29日に予定されている横浜三溪園研修会の参加申込状況と紹介が行われたのを最後に、三輪理事長自ら手酌を買って出られ、一同本年の益々の発展を祈って豪快なフィナーレとなった。定刻7時閉会。（事務局）

中部支部57年度総会報告

中部支部では昨年に引続き、支部総会を開催した。本年は本部での通常総会で松本政雄会員が名誉理事に、また従来支部長を歴任した宇賀敏夫会員が理事に就任したことも

あり、併せて懇親と祝賀の意味から一泊総会となった。また、本年計画されている中部地区友好団体との共催になる事業など重要課題もあり、本部から山品事務局長が参加した。以下田村広報委員からの支部総会報告です。尚、一泊で計画したためか昨年の参加者9名を上回る13名の参加が得られたのは幸であった。

6月12日、奥浜名湖レイクサイドヴィラにて中部事業支部総会報告会及び懇親会を開く。

新入会員 奥山寿一、前田千鶴子、山本隆嗣の3名を迎え、松本政雄、宇賀敏夫、林寅正、堀内啓二、本多正之、早川嵩、小柳朝一、田村悠、事務局 堀江氏、関東会員として山品元（事務局長）の参加13名である。

17:00より総会報告会、松本政雄氏名誉理事、宇賀敏夫氏理事就任報告の後、支部懸案事項の討議に移る。

今年度は幾多の事業計画があり、プロジェクトチームを今後組む必要があり、各会員の参加が要求される。

さらに、今年度中部支部各委員の選出がなされ、中部支部長 林寅正、総務委員 本多正之、堀内啓二、事業委員 池田高明、山本隆嗣、広報委員 田村悠、小柳朝一、北陸地区委員 小松曉一、栃谷賢一各氏の選出が行われた。

その後、山品事務局長をむかえ、懇親会が開かれ活発に23:30 PMまで中部支部及び本部に対する要望など意見交換が行われた。

翌13日、10:00散会予定を繰延、別のヴィラージに場所をかえ11:40まで浜名湖に浮ぶヨットを見ながら会員相互の親睦が行われ、各々心残りながら散会した。

（中部：田村悠）

57・第1回理事会議事録

日 時 昭和57年5月28日（金） 11:00～12:30 PM

場 所 東京・全郵政会館 地階会議室

出席者 理 事 長 三輪正弘、

副理事長 泉 修二

名誉理事 岩瀬要三、豊口克平

理 事 宇賀敏夫、尾上孝一、川崎 浩、

島崎 信、垂見健三、中川千年、

中村圭介、樋口 治、森谷延周、

山品 元, 渡辺 優

監 事 岡村 実, 渡辺 力

委 任 状 川上信二, 富田卓司

正 会 員 榎田 均

はじめに議事につき、三輪理事長より説明あり。泉副理事長補佐にて、報告事項より審議に入る。

1. 報告事項

1. 「大阪21世紀計画」が現在、(財)大阪21世紀協会の主催で進められているが、一連の事業PRに使用される同計画シンボルマークのデザイン公募に協力した。これは、大阪デザイン団体連合各加盟団体の会員を対象に募集するものである。JID会員としては樋口治さんが審査員として協力している。

2. 「デンマーク・日本デザインセミナー」(デンマーク外務省主催)

昭和56年4月に東京で第1回が開催され、JID会員も多数出席した。今回はそれに続くもので、デンマーク王国の首都コペンハーゲンで開催が決まった。特にJID、JIDA2団体の会員25名をデンマーク外務省が、現地でのセミナー出席に招請したいという申し入れがあり、会員対象に急ぎ葉書で公募した。出席希望者の中からの人選については在日デンマーク王国大使館にて調整願った結果、次の会員が決定した。

白石勝彦, 永原浄, 阪井良種, 海老沢宏, 日方和城, 杉富士雄, 川上信二, 川上玲子, わたなべひろこ, 内田次彦(以上10名, 順不同)

5月9日日本出発、現地5月9日～14日、主にコペンハーゲンを中心にセミナー、見学会、公式パーティー等両国のデザイン関係者多数が熱心にハードスケジュールをこなし、成果を挙げた。詳細報告については、いずれ渉外委員会担当で行われる見込。以上事務局より報告。

3. 協賛関係

- ④ 「'82設計の能率化展, CADシステムショウ, デザイン用品展」

〈57. 9. 16～19 大阪,

57. 9. 29～10. 2名古屋

主催: 日刊工業新聞社〉

- ⑤ 「国際デザインフェスティバル・シンボルマーク

応募作品展示会」

〈57. 6. 16～18 大阪,

主催: (財)国際デザイン交流協会〉

- ⑥ 「現代商業空間デザインコンペ」

〈57. 11. 15 〆切

主催: (株)遠藤照明〉

以上3件につき事務局より内容及び経過説明があり、理事会はこれを了承した。

4. 友好団体の動き

年度初めでもあり、友好団体をはじめ下記について事務局より報告された。

- ④ インテリア産業協議会(5月25日の総会で、新会長に岡田徳太郎氏など、役員の入れかえがあった。JIDからは引続き理事に三輪理事長が再選された。会員では白石勝彦さんが理事になった。事務局長の異動及び事務局住所が6月より実施の見込。また、年会費が新たに10万円となり、3万円の値上げが決定した。尚、事務局より、インテリア産業振興対策委員会中間報告書(インテリアコーディネーター資格制度に関する提案, 通産省住宅産業課編)が提出された。内容については今後の検討課題となる模様。

- ⑤ (財)商業施設技術団体連合会(5月31日, 通常総会が開催の予定である。引続いて行われる祝賀会は商業施設士会との併催となっている。

- ⑥ ・(財)日本インダストリアルデザイナー協会(5月28日, 東京で通常総会)

・(財)日本クラフトデザイン協会(5月29日, 長野県木曽で通常総会)

・日本グラフィックデザイナー協会(5月22日, 東京で通常総会)

・(財)日本パッケージデザイン協会(5月19日, 東京で通常総会)

5. 財政報告

過年度未収会費に関しては、3月31日現在では約380万円であった。総会を控え、その後事務局で積極的に納入督促を行い、5月27日現在で約240万円に圧縮した。しかし、尚、その金額は実行予算の8%を占める。その内容は別紙未収一覧表の如くである。

その他財政状況の詳細は総会議案書に記載の通りである。以上、事務局より報告された。

6. 監査報告

56年度監査報告は渡辺監事、岡村監事両氏により以下の如く報告された。

「去る5月18日、監事により所定の手順により必要関係書類全てについて監査を行った。結果、内容について正当であったので報告する」

理事会はこれを承認した。

7. 三溪園研修会

5月29日、総会を機に計画されている横浜の三溪園研修会については特別拝観の許可もとれ、現在、九州、中部両支部の会員を含め25名の参加が予定されている。盛会となる模様。

8. 野口記念基金運用

定期性預金の利下げに対処するため、4月30日付で中期利付国債に運用方法を変更した。

以上の事務局よりの報告につき理事会はこれを了承した。

Ⅱ. 議 題

1. 第14回通常総会について

本年度の通常総会は役員就任の承認を含む議事が予定されているので、限られた時間ながら内容の濃い総会運営をしたい。通産省はじめ関連団体からの来賓予定もある。以上、三輪理事長より発言があり、各理事の協力が求められた。同時に、本理事会に同席の榎田均会員に対しても、理事会からあらためて協力が要請された。

続いて議案書資料について確認が行われ、また時間、役割分担などについて話し合いが持たれた。出席回答状況が事務局よりあり、定足数は確保される見通しである旨報告された。

尚、祝賀会についても授賞式およびその後の進行について確認された。

2. 正副理事長就任の件

去る56年12月10日に実施された選挙で、当選と決まった新役員予定者は、第14回通常総会での正式承認により就任となる。また、正副理事長についても、本来定款（第15条）によれば、理事の総会での承認

直後議事を休憩、第1回理事会として正副理事長を互選その上で総会の承認を受けるのが手順である。

ただ、従来の慣例により理事予定者会議（今回は57.2月15日）および本理事会の互選結果を総会に諮り承認を受けることで全員これを了承した。結果、総会には理事長 三輪正弘、副理事長 泉修二で臨むこととなった。

3. 病気会員の件

以下の会員が病気のため業務を離れていた（56.9～11月）が、連絡遅延の為改めて該当期間を（57.4～6月）として会員規定第8条の2項に拠り、理事会は当該期間の会費免除を承認した。

・柘植 一毅

4. 入退会関係

入 会（受付順）

氏 名	種 別	推 薦 者
大久保 道 治	正 会 員	長堀映司、栗原哲男
白 石 暁 生	準 会 員	中村圭介
伊 吹 宏	正 会 員	（岡村実、川崎浩）

退会届出（順不同）

氏 名	種 別	備 考
川 村 真佐士	正 会 員	
村 上 豊	〃	
瀬 尾 一 嘉	〃	
小柳ベニヤ(株)	賛助会員	
ロイヤル(株)	〃	
寿屋木工(株)	〃	

以上の件につき資料に基づき入会審議については承認となった。

退会については書類不備のものもあり、事務局より確認を急いだ上、改めて次回理事会に一括上程することとし審議未了となった。

次回理事会は7月30日（金）の予定。（以上）

新・検査デザイン課長に横江信義氏

J I Dの主務官庁である通産省貿易局検査デザイン課長の5月20日付異動が発令された。新しい課長は横江信義氏で、東京都出身。今まで国の太陽発電プロジェクト畑で

活躍されて来た方です。通産省オフィスモデル化推進事業も已に3年目に入りワーキング・グループ（木村戦太郎委員長）も多大の成果を挙げて来ているだけに、新課長には前課長同様強いバックアップを期待したいところです。尚、ご尽力いただいた落田前課長は資源エネルギー庁石油部流通課へ着任されました。ご発展を祈ります。

日装連(日本室内装飾業協同組合連合会)の インテリア講習会への講師派遣について

昨年の秋、「日装連」よりJID宛に、加盟会員の専門知識向上のために、全国的規模の講習会を計画しており、その講習会に、講師派遣を中心とした協力要請があり、理事会がこれを受けました。

内容は、日装連が主催する講習会にJID会員の講師派遣を中心に、講習会の内容や、テキスト作り等に助言を与え協力していこうとするものです。

理事会の決定を受け、以来、事業委員会が担当して、その協力を続けてきました。

そして去る4月26日27日の両日、日装連東京に於いて講習会が行われました。日装連東京より講師推薦要請を受け、次の3名の方を推薦しました。

建築概論 佐藤守男氏、インテリアコーディネーションの基礎、遠藤誠之氏、インテリアコーディネーションの実際、中田重克氏。

受講者は日装連加盟会員54名で、港区南青山の健保会館で4月27日・28日の両日実施されました。

講習会の内容と講師

1. インテリア産業の展望とビジネス

横田幹郎氏（ダンインテリア）

2. 建築概論

佐藤守男氏 終建築設計事務所（JID）

3. インテリアコーディネーションの基礎

遠藤誠之氏 桑沢デザイン研究所（JID）

4. インテリアコーディネーションの実際

中田重克氏 中田重克デザイン研究所（JID）

尚ひき続き、神奈川、埼玉等で行なわれる講習会にも協力する方向で準備を進めています。

（事業委員会委員長：秋山修治）

楽しかった横浜三溪園研修会

総会の翌5月29日の三溪園研修会は26名が参加、好天にめぐまれ楽しい1日でした。

三溪園は明治の生米貿易商 原三溪さんが私財を投じて集めた建築のコレクションで、17万㎡の庭園に重要文化財11棟を含む18棟の建物があります。

この日、公開していただいたのは臨春閣・月華殿・聴秋閣の三棟、なかでも臨春閣は紀州侯の別荘として江戸初期に、紀の川に臨み建てられた数寄屋建築で、桂離宮、修学院離宮と同時代で、武士の使用した違いはあっても、大変すぐれた建物です。桂や修学院の見学では、雨戸の閉まった部屋を覗く程度の見学ですが、この日は、ゆっくりお座敷に座り住み心地を楽しむことができました。

間近かに見る狩野山楽の襖絵や、書院の欄間などの変化に富んだデザインも面白かったですが、なんといっても、婦人の住いであった第三屋の天楽の間とその二階にあたる村雨の間から庭園を見る風情には、皆さんご満悦の様子でした。

このほか、月華殿は慶長9年（1604年）家康が將軍宣下のために伏見城内に建てた建物、欄間彫刻に古風をしのばせ、聴秋閣は、京都西本願寺飛雲閣と似て、大変変化に富む建物でした。（総務：中村圭介）

三溪園と薪能と

三溪園は何度か見学しているのですが、今回は建物の内部に入つての特別参観ができ、大変有意義な研修会でした。待春軒でのなどやかな昼食のあと、三溪園へ心を残しながら、法然上人降誕八百五十年慶讃の薪能が行われる、芝、増上寺へと急ぎました。

山門を背景に、四方の竹の柱にしめ縄を張りめぐらせた野外能舞台で法要が営まれ、最初の能「百万」が演じ終る頃、ようやくあたりに夜のとばりが降りてきました。

雅楽の音に振り向くと残照の中に黒くただずむ大本堂から火入れの儀のたいまつが近づき、それに続いて笙、ひちりき、横笛を奏でる僧たちが目の前を通って行きます。

私には昼間見た、天楽の間の欄間から抜け出てきたのかと、一瞬の幻想にとらわれる程でした。

天楽の間のある臨春閣は、プランを数えてみたら、間数13、畳の数117帖もある大きな建物で、これらの数多い部屋に変化をつけるため襖絵、障壁画、天井の意匠、欄間に特徴をもたせてあります。

中でも欄間のデザインは特有で浪を透彫したものや、色紙を入れその間を菊花の透彫で埋めた意匠のもの、特に天楽の間の雅楽器の笙、ひちりき、横笛をはめこんである欄間は印象に残っていました。

火入れの儀が終り、能「葵上」が演じられる頃は、囲りはすっかり夕闇に包まれ、かがり火が勢いよく燃え、風にたなびく煙を目で追えば青味をおびた墨染の空に月が白く止まり、舞台では六條御息所の生霊が光源氏の愛を失った恨みを舞っています。

葵上を表わす小袖のおかれた妖しい雰囲気舞台は月華殿のイメージと重なって思い出されました。月華殿はもとも伏見城に建てられた建物で、囲りの木立と深い軒のためか、陰翳のある貴族的な感じがしました。

— われ世にありしにえは、雲上の花の宴、春の朝の御遊に馴れ、仙洞の紅葉の秋の夜は月にたわむれ色香に染み、はなやかなりし身なれども —

生霊が、かつての栄華をなつかしみつつ謡う場面では、昼間の聴秋閣を思い描きました。建物の一角を斜めにきった大胆な空間をもつ聴秋閣は、私の特に好きな建物ですが、二条城の庭園建築として建てられた聴秋閣は、その昔、はなやかな宴がさぞくり開けられていたことでしょう。

伝統的な建物と新能と、夢幻の時の交叉に彩られた雅な一日でした。 (関東：高田紀久枝)

関東事業支部委員会にご参加を!!

新年度に入って、現在事業構想を樹てるため準備を進めております。そこで、従来の委員会活動に拘わらない清新で自由な発想で計画を作りたいと思います。

4支部の中でも大世帯の関東支部の委員会メンバーにぜひあなたにご参加を!! 特に今まで委員として活動歴のない方、入会して日の浅い方、など積極的にお申出下さい。お申出は電話(03-403-3649 JID事務局又は03-709-0621 わたなべひろこ)か、ハガキ

(本部事務局)まで。7月15日まで。

委員長：わたなべひろこ

日本・デンマーク・デザインセミナー・コペンハーゲン

去る5月9日に出発した「日本・デンマーク・デザインセミナー・コペンハーゲン」に出席の方々は、6月8日帰国した川上玲子さんを最後に無事全員帰国したことになりましたJID、JIDA総勢25名の中、JID会員関係は以下の10人です。

白石勝彦、阪井良種、海老沢宏、川上玲子、杉富士雄、わたなべひろこ、川上信二、日方和城、永原 浄、内田次彦(順不同 敬称略)

いずれ帰国後の資料整備を待つて彼地でのセミナーの成果が渉外委員会などの企画で催されることになると思われます。(事務局)

「ライモ・ウトウリアイネン展」大阪開催

6月一杯、東京銀座の現代彫刻センターで開かれていた現代フィンランド彫刻を代表する旗手ウトウリアイネン展が、7月場所を大阪に変えて開催される。

ウトウリアイネンは1978年秋に開催された「現代フィンランド美術・5人の作家展」で初めてわが国に紹介された作家です。今回の出展は14点で、その後に制作されたものが中心です。軽快なリズムを持つフォルムが光の陰影を創り出しています。親しみやすい作品ですので、ご紹介いたします。



- ・期間 57. 7. 6(火)～31日(土)
- ・会場 大阪市東区備後町3-35 シキシマビル
- (電話 06-268-5751)

現代彫刻センター大阪支店

(記：この記事は関東：長大作さんにお知らせいただきました)

台北市室内設計公会訪問記

去る5月中旬、台北市を訪れる機会があり、中徳企業管理顧問有限公司というコンサルタント会社を通して連絡のとれた「台北市室内設計裝飾商業同業公会」という団体の有志と懇談することが出来ました。以下簡単に報告記とします。

台湾の中でも台北はあらゆる意味で中心都市で、室内設計家も一番多く、また活躍の場も広いです。それだけに有志の皆さんも忙しい中を姚仁祿氏(同公会理事長)の事務所大仁室内計画有限公司に顔を出したものの、途中で中座される方が何人かいました。

話が前後しますが、同業公会を邦訳すれば「台北室内設計事務所協会」ということにでもなると思います。ただ、訊いた範囲では、日本と若干異なる点は、設計と監理及び施工の分離がそれ程劃然としていないのではないかと感じました。施工、メーカー名の会社会員がその名簿に見られることもその一端でしょう。

さて、短い時間でしたが、皆さん訪日、滞日の経験豊かな方々とお見受けしました。日本のインテリアデザイナーの活動、J I Dの事業運営の仕方、予算規模、委員会のこと、賛助会員対策等々、お互い日常感じていることの細かい点に質問が集まりました。

因みに同公会のプロフィールその他を記せば、創立1971年。1981年に創立10周年記念大会を挙行。現在会員数約200事務所、年間予算規模邦貨約600万円、年会費約12,000円^{*}。主な事業は会員の社会的地位向上につながる講演会、県、市など地方公共団体との座談会、会員の報酬基準の作成、会員の技術講習会等です。そして一大目標としては会員数の大巾拡大、未納会費の減少、財源の確保となっており、まさに何れの国も共通事項が多いものだなあ、と感じ入った次第です。

出席者の方々の多くは、同公会で何らかの役柄を担当している人達でしたから、J I Dが年3回も機関誌を発行していること、賛助会員の数と、会費の総額、国際会議への出席、などには感心のようにでした。

そして、何より極東の中心的存在としての日本のインテリアデザイナーとは今後どしどし交流を深めたいと考えている人々が多いようで、我方としても同様積極的に対応することが望まれると思いました。



場所を提供して下さった前記姚さんを初め、出席された方々のお名前をここに記し、誌上より御礼を申し上げます。

姚仁祿、蕭本龍、吳煥星、凌明聲、廖有燦、劉廷振、黃民舟、尤中興、王正和、黃重博、鄭炳祥、家庭裝潢の方(順不同、敬称略)

特に通訳の労をとられた廖さんには感謝いたします。

*文中の金額を考える目安として、現在台北市ではタクシーの基本料金邦貨換算140円。また大卒初任給4～5万円といわれます。そうすると、我が国の経済感覚の約1/3位ですから、同公会の年会費12,000円は、日本での36,000円。また年間予算規模は600×3つまり1,800万円と考えることができましよう。

(関東：山品元)

「インテリアショールームガイド」

インテリア産業協議会(J I Dも特別会員)と財住宅産業情報サービスでは、このほど「インテリアショールームガイド」を発刊しました。内容は以下の通りです。

- ・A5版46ページ、1色刷、所在地地図入り。
- ・壁装材料10社、家具9社、照明器具3社、ファブリックス11社、その他関連7社。

- ・その他同協議会加盟団体、会員住所録、関連4団体所在地などを収録。

以上をご希望の向きは J I D事務局 (03-403-3649)

まで。20部同協議会より寄託されています。

非売品。

(事務局)

関連団体の動き

- ・財日本パッケージデザイン協会 (JPDA) の新理事長は青木茂吉氏が選ばれた。八尾前理事長の昨年、法人化を実現した同協会の益々の発展が期待される。
- ・インテリア産業協議会 では5月25日、通常総会を開き、岡田徳太郎氏を新会長に選んだ。また、特別会員として J I D は入会しているが、年会費が7万円より10万円に値上げが決定した。
- ・財国際デザイン交流協会 (JDF) では、いよいよ第1回デザインコンペの要項を完成した。本号に同封した。積極的にご参加を。
- ・財住宅産業情報サービス では定期刊行物「住宅産業シリーズNo197」として、インテリアコーディネーター資格制度に関する提案 (通産省住宅産業課のインテリア産業対策振興対策委員会中間報告書) を頒布している。詳しくは〒105 東京都港区虎の門1-23-7 第23森ビル7F、電話 03-502-8541 の同財団まで。
- ・財日本インダストリアルデザイナー協会 では、本年4月1日より事務局長に服部須佐男氏が着任した。木村前事務局長は大阪に本部のある財国際デザイン交流協会の常務理事・事務局長に着任した。

台湾より賓客来訪

去る6月9日、ひょっこり凌明聲氏が J I D事務局を訪ねて来られた。

旧知の仲でもあったので、一通りの挨拶を交した後、雑談に話が咲きました。突然の訪問を不思議に思い訊ねて見ると、先月まで理事長をしていた中華民国室内設計協会でも本年が役員改選期にあたっていて、今月、やっと理事長の重責から解放されて顧問になることができたのを機会に、

息抜きを兼ね久し振りに訪日したとの答え。助手の方をお伴に旧友を訪れたり、観光したりで、6日間の短い気楽な旅とのことでした。しかし、エネルギーに時間を過されているようで、当日の夕食などお誘いしたものの先約あり、で又の機会ということになってしまいました。私的な旅行とは云え、先月筆者が所用で台北を訪れた際、「J I D機関誌95号」を贈呈した返礼も兼ね、機関誌「中国室内設計」のバックナンバー (創刊号からの一揃い) を持参、寄贈を受けました。中華民国 (台湾) でのインテリアデザイナーの活動の一端を理解する上で、またとない貴重な資料となることでしょう。さらに、J I Dには未だ揃えていない「旗」と紋章入りネクタイの寄贈も受け感激しました。J I Dからは最近の機関誌「インテリアデザイン」のバックナンバーと「協会賞」のパンフレットを差し上げました。

双方ともに多忙な折の、しかも予告なしの来訪でしたので、大したおもてなしもできないまま、今回の歓談と交流を約すことでお別れをしました。本当に近い将来、相互交流の機会が生れるとよいと思います。簡単ですが報告いたします。

(事務局)

藤川宏允「椅子展」

関西支部の藤川宏允会員が大阪天満で「椅子展」(5月17日~22日)を開いた。会期中は会員を含め実に多数の方々の参観があった。今回は実際の椅子に女性の顔を描いた油絵50点と女性の顔をデザインした椅子30点を展した。ヤコブセン氏デザインの椅子に戯画化された女の顔など、ユニークでユーモラスな作品が会場に並びユカイな個展となった。ご本人も「4、5年前から計画していたが、だんだん面白くなって量がふえてしまった」と洩らすほどの入れこみ様でした。

「椅子展」はインテリアデザイナー52才の遊びの世界と題し、写真入りで地元の大阪新聞がとりあげたほか読売などの紙面を飾ったことを付記します。

(関東: H・Y)

会員の消息

- ・ 光藤俊夫（6月11日から16日まで六本木AXISビルの東京デザイナーズスペース・ギャラリーにて「建築士」の表紙展を開催しました。）
- ・ 長岡貞夫（第2スタジオを開設（会員の移動・参照）いたしました。今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。）
- ・ 平井美憂（別記の所に（会員の移動・参照）転居致しました。近くにお越しの折にはお立寄りください。）
- ・ 山永耕平・わたなべひろこ（木工、染織にてWCC京都大会記念賞を受賞し、京都国際工芸センター・ホールのザ・クラフトマン・ショウ'82に出品いたしました。）
- ・ 中村 昇（4、5月の2ヶ月間、第2の職場でありましたスウェーデンのイケアに滞在しました。）

第14回通常総会返信葉書などより抜粋

- ・ 柘植一毅（何かとお世話さまです。ご心配をおかけしましたが、おかげで日毎に回復に向っております。6kg減った体重も3kg戻りました。）
- ・ 當山建道（ハワイのホテル・プロジェクトを進めており、留守が多く何かと失礼しております。）
- ・ 山口道夫（山内陸平氏おめでとうございます。今後共に良い仕事をしてください。関西の事業計画を立案致します。皆様御協力くださいます様に。）
- ・ 山本 信（三溪園の企画、とても良いと思ったのですが、残念ながら前の週東京へ出たりして参加できず残念でした。）
- ・ 志波 茂（住所も変り張り切っています。）
- ・ 秋田嘉正（海外のデザイン動向等、機会を通じてお知らせしたいと考えています。）
- ・ 田村 悠（今回も又、出席できず残念でした。土曜日の総会だといのですが。）
- ・ 小坂浩永（今回のインテリアデザインは格段の出来でした。有難う。）
- ・ 菅野和弘（たまには出席したいと考えましたが、月末の金曜日ともなると企業内労働者は時間的な余裕なく、申し訳ありません。）
- ・ 竹内嶺生（いつも欠席ですいません。しかし仕事（ノックダウンファニチャーと収納パーツ）では頑張ってます。

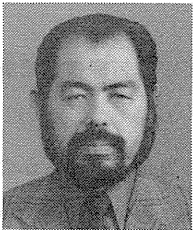
す。工場もつくりました。）

- ・ 新居 猛（今回、財団法人協会から先に協会賞のニューチェアーXの折りたたみ椅子の意匠が昭和57年度全国発明表彰日本商工会議所会頭発明賞になりました。）
- ・ 上田幸正（我町、防府にも都会の波がおし寄せてきております。デザイン活動も都会組に負けない様に頑張っております。）
- ・ ・浅田弘之（暑くなってまいりますが、皆様の御健康お祈りいたします。）
- ・ 星川孝道（欠席ばかりで申し訳ありません。何らかのお役に立たねばいけないとは思っているのですが……恐縮です。）
- ・ 諸富幸成（業務委員会は副委員長、メンバーの構成を強化して進めてまいりますのでよろしく。）
- ・ 榊青島商店・青島賢治（山川君、協会賞おめでとうございます。今後共の御活躍を期待します。）
- ・ 榊日建設・伊吹弘（山内陸平さんの受賞を心からお祝い申し上げます。）
- ・ 鹿島建設（賛助会員としてのメリットを考えて欲しい。）
- ・（以下の方々からも一筆啓上いただきました。ありがとうございました。）
穴山邦夫・本多正之・川村吉司・小川欣一・上野忠之・遠藤誠之・武村 勲・真水公雅・木崎 卓・坂根健一郎・鈴木恭二郎・新川佐知子・村口映子・村田清包・藤村盛造・下島資子・渡辺輝男・嶋佐知子・内村 麗・杉富士雄・溝口 新・高木茂雄・中央設備エンジニアリング（岡嶋敏弘）・西和インテリア（肥田 武）

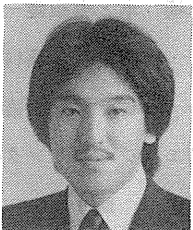
新入会員の紹介

● 新入会員

正 会 員

おおくぼ みち はる 大久保 道 治 (会員番号 513) 	<勤務先・事務所> 商品開発コンサルタント 東京都足立区西新井 2-5-8-304 〒123 (03) 890-6191 <自 宅> 同 上
いぶき ひろむ 伊 吹 弘 (会員番号 514) 	<勤務先・事務所> (株)日建設計 大阪市東区横堀 2-38 〒541 (06)203-2361 <自 宅> 京都市東山区五条橋東 3-404 〒605 (075) 561-5212

準 会 員

しら いし あき お 白 石 暁 生 (会員番号 B-149) 	<勤務先・事務所> 東京都世田谷区豪徳寺 2-22-24 〒154 (03) 429-1467 <自 宅> 同 上
--	---

● 会員の移動

正 会 員

会 員 名	移 動 事 項	新
片 桐 秀 三 (関 東) P 44	自 宅	〒285 千葉県佐倉市生谷 1515-319 63街区 23
松 原 明 (関 西) P 137	勤 務 先	(株)やなぎ建築設計事務所 〒703 岡山市高屋 183-1 電話 (0862) 73-9288

志波 茂 (関東) P63	自宅	〒213 神奈川県川崎市高津区宮崎5-8-1 第2柳荘C 電話 (044) 852-0907
矢村 勇 (関東) P105	自宅	〒189 東京都東大和市清原1-1 北210-3 (住居表示変更)
夏原 晃子 (関西) 新	勤務先	夏原晃子ART&DESIGN研究室 〒596 大阪府岸和田市春木若松町7-10 電話 (0724) 36-1135
平井 美 夢 (関東) P86	自宅	〒204 東京都清瀬市中清戸5-72-24-101 電話 (0424) 91-1322
関口 英子 (関東) P76	勤務先	(株)西武百貨店 外販部設計室 〒171 東京都豊島区南池袋1-16-22 電話 (03) 983-5111 内線374
長岡 貞夫 (関東) P78	事務所	長岡貞夫デザイン事務所 第2スタジオ 〒150 東京都渋谷区神宮前5-51-7 坂田ビル4F 電話 (03) 498-4340
後藤 嘉夫 (中部) P163	勤務先	中西栄園 〒460 愛知県名古屋市中区新栄1-9-6 電話 (052) 261-8944
アロー7 デザインオフィス (関東) P100	事務所	アロー7 デザインオフィス 〒356 埼玉県川越市砂新田2556-57 電話 (0492) 45-2765

準 会 員

江島 太士 (九州) P187	自宅	〒877 大分県日田市朝日ヶ丘576-54
中沢 ひろし (関東) 新	事務所	重縫室内建築研究室 〒150 東京都渋谷区道玄坂2-18-11 サンモール道玄坂210 電話 (03) 462-1769
井口 竹喜 (関東) P173	自宅	〒192 東京都八王子市元横山町3-13-17

プラス ㈱ P 214	電話番号	電話 (03) 942-3111 (大代表) 建装部 (03) 942-3171
山田照明 ㈱ P 217	担当者	設計部部长 宮崎 泰治
大成建設 ㈱ (新)	担当者	インテリア室室長 宮本 孝一
スタイルフランス ㈱ (新)	担当者	太田 泰子
㈱ サンゲツ P 201	担当者	企画課 加藤 徹

● 前号の新入会員の電話番号の項に次の誤りがありました。慎んで訂正いたします。

(正) 夏原 晃子 自宅 (0724) 22-3707

(正) 渋谷 章 " (06) 872-0890

● 会 議

〔 4 月 〕	20 日	選考委員会運営部会	〔 予 定 〕	25 日	関東事業支部委員会
〔 5 月 〕	28 日	57・第1回理事会	〔 7 月 〕	30 日	57・第2回理事会
		第14回通常総会			
〔 6 月 〕	21 日	野口記念賞設立準備委員会			
	22 日	事業委員会			

寄贈図書 (・印寄贈者)

・(株)日本インダストリアルデザイナー協会	会員プロフィールブック	4. 27	
	家庭装 潢	5. 17	・家庭装 潢 雑 誌 (台湾)
・台北市室内設計装飾公会	創会10周年記念大会	5. 17	
・(株)日本パッケージデザイン協会	(株)日本パッケージデザイン協会作品集'82	6. 7	
・中華民国室内設計協会	中国室内設計 (創刊~13号)	6. 9	
・インテリア産業協議会 (財)住宅産業情報サービス	インテリアショールームガイド	6. 15	

インテリア産業振興対策委員会 中間報告書から(第1回)

通産省の生活産業局住宅産業課から、標題の委員会中間報告書が出された。この内容に関心の深い会員も少なくないと思われるので、A4判25ページに亘る内容のものを、以下の順序で全3回に分けて転載することとした。

第1回 (第1章「インテリア人材育成とその問題点」)

の約1/2づつ)

第2回 ()

第3回（第2章「インテリアコーディネーター資格制度の提案」）

・目次（全3回分）

第1章 インテリア人材育成とその問題点

1. はじめに
2. 関連分野の現状と問題点
3. 人材、能力面での現状と問題点
4. 人材育成の現状
5. インテリア産業界における資格・検定などの現状
6. 必要な人材、能力
7. 人材育成の強化、促進
8. インテリアコーディネーターの育成

第2章 インテリアコーディネーター資格制度の提案

1. インテリア需要の振興とインテリアコーディネーター資格制度の提案
2. 資格認定の方法
3. 資格認定の実施機関
4. 資格制度の維持・管理・運営等
5. 資格取得者の受け入れ体制
6. 資格制度の実施時期

付 録 インテリア産業振興対策委員会委員名簿

人材育成等専門委員会専門委員名簿

第1章 インテリア人材育成とその問題点

1. はじめに

昭和48年3月、通商産業省に設けられた本委員会は、インテリア関連業界の需要と供給に関連する広汎な問題を対象とした検討を行ってきており、「住宅とインテリアをシステムの結びつける」とことと、「インテリア

産業をシステムの産業として位置づける」ことの2点をその一貫した基本姿勢としている。

人材問題に関しては、初年度の報告書『インテリア産業の現状』の冒頭で、「インテリアの生産、供給を行う企業は、企業規模が小さく、企画力、技術力、販売力等が弱体の上………」と指摘されている通り、経営、管理、統制、企画、技術及び販売の各分野で人材、能力面での問題点が指摘されている。

また、流通段階における問題点として、「ユーザーの要請に応えるコンサルティング機能やインテリアの最終設置までの施工機能を必要とする」点があげられ、望まれるインテリア販売業者の基本条件としても、「インテリアエレメントの組合せ、コーディネートに対しての助言、あるいは上手な買物という面からも販売店のコンサルティング機能は重視される」と報告されている。

さらに、「インテリアの供給者側と需要者側との接点」として位置づけられているインテリアデザイナーの教育については、「公的な教育機関が未整備で、インテリアデザイナーの資格についても確立されていない」と、その不備を指摘している。

これらの点については、『インテリア産業のビジョン』
として提言された「産業中核論」の中でもとりあげられ
ている。

すなわち、産業中核育成に必要な企画力及び開発力について、「各企業の商品企画、商品開発、販売企画、市場開拓などの業務を充実、強化する必要がある」とし、また、そのインテリア供給体制について、コンサルティング機能の確保を強調して、「本格化する消費者のニーズに対応するため建築士、インテリアデザイナー、インテリアコンサルタント^{*}などの人材を養成し、消費者のためのコンサルティングに応ずる体制をもつことが必要である」と人材面での課題を再び明確化している。

(注：＊ 名称は異なるが、インテリアコーディネーターと同義として記述されている。)

これらのインテリア産業における人材に関連する問題点は、その後も継続して検討の対象となっていたが、昭和54年度には、「インテリアマートの経営システムとインテリア人材育成のあり方」として、インテリアマート運営のために必要とされるインテリアコーディネータ

ーに関する提案が行われている。

以上の経緯からみても、インテリア産業振興にとって人材育成問題の解決が極めて重要な課題となっていることがわかる。

このため、本委員会の下に人材育成の問題について専門的に研究調査する目的で専門委員会が設置され、これまでの検討結果を踏まえつつ、人材育成面での有効かつ具体的な方策を提案することを主眼として以下の手順で調査検討を行ってきた。

- ① 産業界における人材能力面及び人材育成面での現状に関し、企業経営者、実務担当者等からヒヤリング及びデータ収集を行った。
- ② 産業界に関連する諸資格検定制度的及び多方面にわたる養成機関の現状について調査を行った。
- ③ さらに、①及び②の実態調査を踏まえ、需給環境条件の問題構造を再確認し、その解決方法として有効な人材育成上の施策の検討を行った。

その専門委員会の報告について、さらに、本委員会において、より広い視点から詳細な検討を加えてきた。

「インテリアコーディネーター資格制度」を実現するためには、細部の技術的な諸問題について、まだ検討の余地を残しているものの、この制度はインテリア市場の活性化及びその拡大に有効な施策であり、産業界において顕在化している問題の解決に資するものと考えられる。

本報告書は、上記の検討をとりまとめ、インテリアコーディネーター資格制度の実現の方向性について、提案報告するものである。

2. 関連分野の現状と問題点

— 新しい需要発生ポイントとその対応策 —

インテリアの需要の内容を見ると、時代とともにその質が変化しており、需要自体の構造的変化が顕著に現われつつある。昨今、新築住宅着工件数の減少傾向が顕著である。これは土地価格の上昇、相対的な所得の伸びの鈍化、人口の社会移動や核家族化の鈍化などが背景にあるものと考えられる。

しかしながら、住生活の質的向上に対する国民のニーズは、根強いものがあり、今後は新築需要のみならず、既存の住宅ストックの質的向上が極めて重要になってくるものと考えられる。この傾向に伴い、新築が一次需要

とすれば住宅の住替え、改装、増改築といった二次需要が増大していくことが明らかである。インテリア関連の需要は、住空間の静的な質の向上に伴う変化にも増して、住空間の動的な変化に伴うものの増大が見込まれる。これに対し、供給側の対応は旧態依然としているのが現状である。この新しい形の需要発生点での特色としては、

- ① 単一インテリアエレメントの需要にとどまらず、トータルな需要が増大すること。
 - ② そのため、使用されるエレメントの範囲が拡大し、施工、工事が複雑化するので、施工業者等にとってこれまでよりはるかに質の高い情報と施工技術に関する知識などが必要になること。
 - ③ したがって、エレメントの供給側としてもソフトの分野での多面的な情報と施工に関する専門的な知識が要求されること。
- 等があげられる。

インテリアコーディネーターは、最終需要者、施工業者及びエレメントメーカーの接点にあつて、このような新しい需要形態に対応し、市場活性化に資するものとして位置づけられる。

3. 人材、能力面での現状と問題点

過去の研究調査報告書にも見られるとおり、インテリア関連業界での根本的な問題点は、経営、管理・統制、企画、技術、販売など、およそ企業活動全般にわたる面での人材不足である。

このことは企業規模の零細性と表裏をなす問題として恒常化しつつある傾向も見られており、何らかの抜本的な対策を講じない限り解決されないものである。

こうした問題を未解決のまま放置しておくことは、需要と供給の乖離を招き、インテリア関連業界の健全な発展を阻害することとなる。

インテリア関連の各業種、各企業は過去20～30年間に飛躍的に成長発展した例が多く、大半の企業では、この間に現在の経営基盤を築いたと見ることができる。

こうした急成長企業や業界では、経営面でのさまざまな問題を抱えているのが常で、インテリア業界においても、経営資源面、特に人材面で問題のある企業の例は多い。

すなわち、経営者の世代交替、後継者の問題であり、

質・量ともに不足がちな中間管理者層の問題であり、専門・技術分野での人材、能力不足の問題などである。

このような問題が顕在化するに至るプロセスや背景は、必ずしも単純なものとはいえないが、関連産業、とりわけ建設業界の動向や、「造れば、売れた」という一般的な消費動向に影響された部分も多いといえる。

特に、大部分のインテリアエレメントの需要は、建物の新設着工件数との相関性が強く、業界全体でみると、その成長要因は建設業界の動向に直接左右される他律的な面があったことは否めない。

また、「造れば、売れた」時代では、企業の業績は人員の増加によって拡大することが可能であるところから、ことさら技術や知識など能力面での質的な向上を図らなくても、人員を量的に拡大することによって企業の業績が拡大することが可能であったため、人材の必要性や能力面での問題が顕在化することは少なかった。

しかしながら、高度成長期から安定成長期への推移に伴い、各業界や企業は、もの（ハード）のみでなくソフトを重視するようになってきており、このような状況下でインテリア関連業界においては、人材、能力面での問題が顕在化するに至っている。

すなわち、激変する経営環境条件にインテリア産業が対応していくことが要求され、経営面での他律性の排除やマーケティング機能の強化を試みる段階で、今まで潜在化していた人材、能力の不足が表面化し、人材育成・能力開発や人材確保などの新しい問題が発生している。

他方、インテリア関連企業を企業規模の面から見ると、業種・業態により多少異なるものの、従業員20人未満の事業所が過半数を占めており、インテリア産業において果たしてその人材等が確保され得るかどうかが問題である。

ヒヤリング調査による一例ではあるが、従業員数100人程度の製造、施工業の企業においてすら、必要な専門技術者を確保できないと答えている。

新規採用で人材を採用しようとしても建築関連業、住宅産業などの他、電子電機産業、自動車産業、サービス業などの後塵を拝してインテリア関連業界では必要とする優秀な人材を得ることがむずかしい状況にある。

また、OJTを唯一の方法とする企業内の人材育成や

能力開発では企業が必要とする水準に達する可能性も少ないし、また、このOJTさえ十分に実施されていないのが現状といえる。

さらに人材の育成、能力開発等の教育投資の面でも、一部の業界、企業を除いては極めて消極的である。その中には自社の人材流出に対する懸念から教育に消極的となっている例も見受けられる。

4. 人材育成の現状

インテリア関連分野での人材育成については、大別して現在、①大学、短期大学、工業及び工芸高等学校、専門学校（専門課程を置く専修学校という（以下同じ。））専修学校、各種学校などの教育機関によるもの、②一般企業の企業内教育又は民間職業訓練機関によるもの、③労働省、地方自治体に設置されている職業訓練機関などの実務教育機関によるものがある。

これらの各機関における教科内容、訓練科目等は多種多様である。

このうち、大学、短期大学、工業高等学校等では、インテリアデザインに重点が置かれている。各種学校、職業訓練校では、基礎的な技能訓練教育は充実している。また、企業内訓練及び民間職業訓練機関においては、特定の専門的技能訓練が重視されている。

ただ、いずれの機関による育成の場合においても概してインテリアの新しい流れ及びそれに対応した業界の新しい傾向への対応に難点がある。各機関における人材育成の現状は、以下に述べるとおりである。

(1) 大学・短期大学の教育

正式にインテリアを名乗る学科はないが、それに関連する教育を行っている学科は、次のいずれかの学部・に属している。

- ① 教育学部
- ② 美術学部
- ③ 工学部
- ④ 家政学部

教育の内容は、さまざまであるが、カリキュラムを調べてみると、12校については、次のようになっていることが判明した。

色彩に関する教科のないもの	4
設計製図に関する教科のないもの	5

デザインに関する教科のないもの	1
インテリアデザインに関する教科 のないもの	3
建築に関する教科のないもの	3
人間工学に関する教科のないもの	10
照明に関する教科のないもの	10
インテリア概論又は歴史の教科のないもの	4

(2) 工業及び工芸高等学校の教育

現在約 50 校にインテリア科が設けられているが、そのほとんどは、従来、木工工芸科と呼ばれていたものである。卒業生の総数は、約 2,000 名であるが、業界に就職するものばかりとは限らない。教育の内容は、計画、設計及び生産の 3 本の柱からなっている。教科書は、指導要領の趣旨に沿って改訂されたので、木材工芸科の当時と比べ、面目を一新した。

(3) 専修学校及び各種学校の教育

専修学校及び各種学校のインテリアデザイン科や室内装飾科などでは、住宅、店舗、船舶、航空機、車輛などの室内の設計を対象としている。これの広範な教科を 2 年間で消化するよう計画されたカリキュラムから判断すると、それぞれの個性に応じて才能や技能を引き出すように指導することに重点をおいていることがわかる。

(4) 企業内訓練、民間職業訓練

インテリア関連業界での企業内訓練又は民間職業訓練の内容は、総合的なものが少なく、専門的部分的なものの例が多い。

例えば、住江インテリア専門学園では、床仕上げ施工のうちのカーペットの施工訓練に重点が置かれ、インスティテュート・オブ・コスガ・インテリアデザインでは家具にポイントを置いている。

(5) 職業訓練校における訓練

これは、職業訓練法に基づいて行われているもので、職業に従事する全期間を通じて段階的、体系的に実施される訓練である。

訓練の内容は、養成訓練、向上訓練、能力再開発訓練その他多様なものとなっており、インテリア関連科目は、以下のとおりである。

① 普通訓練課程における関連科目

建築科、左官科、ブロック建築科、タイル施工科、畳科、配管科、プレハブ建築科、塗装科、インテリア・サービス科^{*}、床仕上げ施工科
(注：* 室内装飾品の選定、内装施工等の技能を対象とする。)

② 専門訓練課程の養成訓練（短期大学校）における関連科目

建築科、左官科、室内造形科

③ 一般技能士訓練課程の向上訓練における関連科目

板金科、建築大工科、配管科

④ 二級技能士訓練課程の向上訓練における関連科目

木工科、建築大工科、とび科、左官科、ブロック建築科、タイル張り科、畳製作科、配管科、床仕上げ施工科、天井仕上げ施工科、カーテン施工科、いす張り科、表装科、塗装科など。

⑤ 職業転換訓練課程の能力再開発訓練における関連科目

木工科、家庭営繕科、左官科、タイル施工科、配管科、インテリア・サービス科、床仕上げ施工科、プレハブ建築科

⑥ 長期指導員訓練課程（大学校）における関連科目

建築科、木工加工科

(以下次号に続く)

事務局短信

① 最近うれしかったことのひとつに、「デザインフロムスカンジナビア No.11」の斡旋があります。昨年に引続き 70 人という多数の会員が利用され、輸入元に照会した甲斐がありました。今後も、トクな企画の場合、どうぞご利用下さるようお願い致します。会員諸氏の利用が多くなるとその後の条件を先方に有利に提示できるので、益々トクな結果が生れるという特性が活かせます。

② 横浜三溪園研修会は最近特によい企画だったようです。5 月 29 日梅雨入り前の好天気も幸いし、参加者 26 名というグループ行動にも丁度よい人数で、和やかな研修会となりました。研修成果は本文にあるようですので省略しますが、中華街、元町辺りも、中部の本多夫妻、現地の竹中会員などとの出会いもあり、意義ある一日でした。

た。

- ③ 中部支部総会の後、直ちに催された懇親会、二次会でビックリしたこと。皆さんアルコール強いですなあ。本部事業への注文もまた強かったです。

④ キャノンコピー料金案内

A3, A4, B5, B4とハガキがコピーできます。両面もOKです。会員利用は上記サイズに関係なく1枚15円です。従ってA5, A4, B5などは2枚づつコピーすると更に経済的です。同時複写99枚まで。枚数多い場合と本部に近い方のご利用をおすすめします。夜間の利用は取扱注意書きを十分守って下さい。

- ⑤ 『日本のインテリアデザイン』事務局にも在庫しています。事務局手渡し分は1冊12,800円。郵送の場合は㈱六耀社より発送。1冊13,500円(送料とも)いずれも申込は事務局まで。

- ⑥ 新年度会費の納入時期です。未納の方、できるだけ早いアクションをお願い致します。

- ⑦ 3回に分けてインテリアコーディネーターに関する報告書を転載することになりましたが、役員の方々には完全なものをすでに発送済です。地方会員でお急ぎの場合、理事の方に見せてもらって下さると助かります。遠隔地の会員でお急ぎの場合は直接本部(03-403-3649)へ。

(事務局 山品 元)

海外関係の専門図書館・資料室(再録)

名 称	所在地	電 話	内 容 や 特 色 など
国立国会図書館国連・官庁資料室	千代田区	581-2331	国連など国際機関の資料や各国の政府刊行物など
外務省図書館*	〃	580-3311	外交関係の資料、図書を中心に蔵書13万冊以上
日本貿易振興会資料閲覧室	港 区	582-5511	海外経済情報、貿易関係の資料多数。関税率表なども
国連広報センター図書室	〃	475-1611	国連が出した刊行物(英語が多い)を中心に約5,000冊
OECD東京広報センター閲覧室	〃	586-2016	OECD(経済協力開発機構)の報告書、資料、統計
世界経済調査会資料室*	〃	400-1671	経済、国際関係、政治が主で、研究者の利用が多い
アジア経済研究所図書資料部	新 宿 区	353-4231	発展途上国に関する資料センター。地図も約2万枚
アジア・アフリカ図書館	三 鷹 市	0422-43-0536	アジア、アフリカ諸国の文化全般、入館料200円
ユネスコ・アジア文化センター情報資料室	新 宿 区	267-6071	ユネスコ本部の出版物やアジア各国の教科書、児童図書など
アジア生産性機構図書室	港 区	408-7221	東南アジアの経済関係の図書、雑誌。大半が英文
韓国文化院図書室	豊 島 区	988-9271	文化、芸術関係を中心に、韓国政府の刊行物や雑誌も
アメリカン・センター図書室	港 区	436-0901	米国に関する書籍、調査資料、ビデオカセットも
アメリカ大使館ビジネス・インフォメーション・センター図書室	〃	583-7141	米国のわが国への輸出振興を目的とした、日米ビジネスマンのための経済情報センター
東大教養学部アメリカ研究資料センター*	目 黒 区	467-1171	米国の社会科学、人文科学関係の和、洋書、雑誌、新聞。研究者向き
カナダ大使館図書室	港 区	408-2101	一般図書のほか雑誌、新聞、フィルム。留学相談も可
ラテン・アメリカ協会閲覧室	渋谷区	403-2661	中南米各国に関する政治、経済、社会関係の資料
ブリティッシュ・カウンシル図書室	千代田区	264-3724	洋書3万冊以上。英国政府の刊行物やカセットも
日仏会館図書室*	〃	291-1144	仏語で書かれた書籍、雑誌が約4万冊
フランス大使館情報部資料室	港 区	473-0171	フランス政府の最新の政治、経済関係資料が多数
東京ドイツ文化センター図書室	〃	584-3201	第2次大戦後の西独の出版物を各分野にわたって収集
イタリア文化会館図書室	千代田区	264-6011	イタリアの歴史、芸術、文学など文化関係の図書多い
駐日EC委員会広報部資料室	〃	239-0446	EC委員会本部が出した資料、報告書を収集、貸し出し
オーストラリア大使館図書室	港 区	453-0251	一般図書、雑誌のほかレコード、写真なども豊富
日ソ図書館	世田谷区	429-8239	ロシア語の原書約5万冊、革命前の文献多数。有料

(注)*は利用に一部制限あり

JID NEWS 1982/6・7

(日本インテリアデザイナー協会月報1982年通巻115号)

毎月1回発行 頒価250円

編集・社団法人 日本インテリアデザイナー協会総務委員会

昭和57年7月5日発行

中村圭介・川野明・増本敏治・山田晃・山下礼子・

発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会

高田紀久枝・杉富士雄・鈴木栄二・山品元・前原誠・

下島資子・佐藤勝・古谷悟嗣・藤川宏允(関西)

印刷所・広洋印刷株式会社

振替・東京8-76389